

■ 编著：杨凤莲 高春荣 窦金兰

大学日语课外衔接阅读

初级篇



大学日语课外衔接阅读

初级篇

编著：杨风莲 高春荣

龚金兰



天津大学出版社

TIANJIN UNIVERSITY PRESS

大学日语阅读教程

图书在版编目(CIP)数据

大学日语课外衔接阅读. 初级篇 / 杨凤莲, 高春荣, 窦金兰编著.
—天津: 天津大学出版社, 2009. 4
ISBN 978-7-5618-2972-1

I. 大… II. ①杨… ②高… ③窦… III. ①日语—阅读教学—高等学校—自学参考资料 IV. H369. 4

中国版本图书馆CIP数据核字(2009)第041099号

高春荣 杨凤莲 窦金兰
三金美

出版发行	天津大学出版社
出版人	杨欢
地址	天津市卫津路92号天津大学内(邮编:300072)
电话	发行部:022-27403647 邮购部:022-27402742
印刷	廊坊市长虹印刷有限公司
经销	全国各地新华书店
开本	185mm×260mm
印张	10.5
字数	350千
版次	2009年4月第1版
印次	2009年4月第1次
印数	1-3000
定价	45.00元(共三册)

凡购本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 烦请向我社发行部门联系调换

版权所有 侵权必究

总 序

众所周知，学好日语绝非易事，尤其是要想提高日语阅读水平极不容易。大多数日语专业的大学生都知道，娴熟的日语阅读能力绝非一朝一夕就能练就的。这是因为要进行有效的日语阅读理解不仅要求我们拥有很大的词汇量，还要求我们拥有坚实的语言功底、广泛的基础知识和颇强的理解能力。这些都需要学生平时大量地阅读文章来积累知识，扩大知识面。

日语能力等级考试成绩的高低，很大程度上标志着大学生日语水平的高低。而阅读理解正是日语能力等级考试的重要组成部分，也是检验考生综合能力的一个重要方面。要想在日语能力考试中取得优异的成绩，就一定要具备优异的日语阅读水平，而要提高日语阅读水平，就必须大量阅读和进行有针对性的训练。大量阅读是一个由量变到质变的过程，必然要消耗大量的时间和精力，而且由于没有经过系统化的训练，进步也会比较缓慢。而针对性训练则不然，它是通过阅读少量但具有一定代表性的文章，使日语阅读能力得到较快速提高的一种方法，它胜在可以使学习者在一段时间内得到较大提升。如果说第一种方法是用一点点堆积成山的话，那么这套书就是先给读者搭一幢大楼的框架，然后再向里慢慢填充水泥砖块的过程。与前一种方法相比，这个方法更为方便、有效，受众面更广，也更能为广大日语学习者所接受。本套书就是秉承此种思想编写而成，全套书共分三册，共150篇具有代表性的文章，由浅入深，题材广泛，内容新颖，融知识性、趣味性、科学性于一炉，可以说，本书是一本集学术性、可读性、实用性于一体的好书，旨在帮助广大日语爱好者卓有成效地提高日语阅读水平。

由于编者水平有限，在编写过程中出现的诸多疏漏及不当之处恳请有关专家和读者批评指正。

编 者

目次

1、竜	1	24、星の子 (2)	83
2、空中ブランコ乗りのキキ	4	25、星の子 (3)	87
3、アイスクャンデー売り	7	26、切ることと創ること	91
4、カバこそぼくの人生 (1)	11	27、ふき漆の器	95
5、カバこそぼくの人生 (2)	15	28、水仙月の四日 (1)	98
6、クジラの飲み水	19	29、水仙月の四日 (2)	101
7、花があれば自然?	23	30、水仙月の四日 (3)	104
8、わたしたちと古典	26	31、水仙月の四日 (4)	107
9、どっちがほんもの	29	32、かだめしテスト (1)	111
10、故事成語	32	33、かだめしテスト (2)	115
11、ボランティア、はじめの一步 (1)	35	34、ブラリひようたん	119
12、ボランティア、はじめの一步 (2)	39	35、異郷からの手紙	122
13、ボランティア、はじめの一步 (3)	43	36、木簡が語る日本の古代	125
14、この小さな地球の上で (1)	46	37、無文字社会の歴史	127
15、この小さな地球の上で (2)	50	38、思い出す言葉	130
16、この小さな地球の上で (3)	54	39、「である」ことと「する」こと	132
17、玩具屋 (1)	58	40、人生論ノート	134
18、玩具屋 (2)	61	41、手の変幻	136
19、玩具屋 (3)	65	42、東京の空間人類学	138
20、トロッコ (1)	69	43、章恩讐の彼方に	140
21、トロッコ (2)	72	44、私はこうして詩を作る	142
22、トロッコ (3)	76	45、核時代の次に来たるべきもの	144
23、星の子 (1)	80	答案	147

1 竜

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

時間のことなどかまわなかったが、さすがにくたびれた榎やんが、ふと手を休めて前を見ると、①とほうもなく大きなうなぎが、よろりと泳いでおる。——こらまあ、つきにとりとど……。

と、舟をそろりと寄せようとした時、沼の面に、どでかい穴が、二つ開いたかと思うと、なま暖かい空気が、ぶわあっと辺り一面に広がった。

三太郎^{さんたろう}が、たまっていた息をはいたのである。

そして、よほど②が大きくなっていった時なのか、三太郎は、ちよいと顔をアツき出してみたのだ。

うなぎがひよろりと立ち上がった。そいつが三太郎のひげだったことは、言うまでもない。

榎やんの目が、ふだんの十倍ほどにも見開かれたが、三太郎の目は、その何百倍も大きかった。榎やんは、わああっとわめいて、へたへたと③をぬかしてしまった。

しかし、三太郎のほうはもつとおどろいた。人に見つかっただけでなく、そいつに、わああつとおどかされたのだからたまらない。こちら、きやつとわめいて、とび上がった。いつても、そこがそれ、山をふた巻きもできるほどでかい竜のこと、沼の水は、④アワ立ち逆巻き立ちのぼり、榎やんは舟ごと岸にふっ飛ばされてしまった。

榎やんがやつと気がついた時には、三太郎はとつくに沼の底深く、⑤シズミ、前よりもつとひっそりと⑥息を殺して、上の様子をうかがっておった。

⑦沼の周りに人がうろろうし始めるようになるのに、何日もかからなかった。⑧榎やんが言いふらしたせいにちがいない。

そればかりか、よほどの物好きがいるとみえて、夜になっても帰らない。かがり火などたいて、気長に三太郎が顔を出すのを待っている様子なのだ。

⑨これには三太郎も困ってしまった。これでは日に一回の胸の空気の入れかえもできない。いつても、もう一度人間と顔つき合わせるなど思いもよらず、三太郎は、ただただしょんぼりととぐろを巻いておるばかりであった。

そんな三太郎が時々つくため息が、大きなあぶくになって立ちのぼり、沼の周りの連中を、

—それ出たぞい！

と、あわてさせる。

ところが、それがまたうわさになり、沼見物の人間の数は増えるばかり。そしてとうとう、沼の周りには、見物衆相手の店さえ建つ始末。

三太郎はうつかりため息一つ、くしゃみ一つすることができなくなり、すっかり元気をなくしてしまった。^⑥三太郎は、^⑤気の弱い微笑を浮かべながら、沼の底にいく巻きもしている自分の巨大な体をながめているばかりであつた。

とはいうものの、いくら三太郎が気が弱いといつても、そんなに何日も何日も ^エモグりっぱなしでは、^③がつまってくる。胸の中に灰色の ^オサバクが広がり、舌がざらざらしてくる。三太郎は大きな目をぎよろんとさせ、長い耳をぴんと立てて、上の様子をうかがった。少しでも人のいないおりがあれば、思い切つて鼻先を出そうと、やっと心に決めたのである。しんぼうがまんにもきりがある。

さて、そんな日が何日続いたあとだったか。ふしぎなこと

に、あれほどざわついていた沼の周りが、いつやら、以前どおりになり、しんとしているではないか。

三太郎は、それでも用心深く、^⑦夜半になってから、そろそろそろそろと鼻先をつき出した。ああその時の夜の空気のうちまかったこと。

(1) —線ア、オのカタカナを漢字に直して書きなさい。

エ	ア
オ	イ
	ウ

(2) ^① ^③に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

(ア) 腰 (イ) 鼻

(エ) 顔 (オ) 胸

①
②
③

(3) —線①「とほうもなく大きなうなぎ」の正体が書かれている部分を、本文中から六字で書き抜いて答えなさい。

(4) 線②「息を殺(す)」、⑦「夜半」とは、どういう意味ですか。それぞれ次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

②

- (ア) 次々に続いて起こって、ひどくいそがしい。
- (イ) はつとおどろく。
- (ウ) そつと呼吸をして、じつとしている。
- (エ) 胸がはずんで、呼吸が苦しい。

⑦

- (ア) 真夜中
- (イ) 日暮れ
- (ウ) 夜明け
- (エ) 夜明けの少し前

②			
		⑦	

(5) 線③「沼の周りに人がうろうろし始めるようになるのに、何日もかからなかった。」とありますが、この一文を意味を変えずに次のように書きかえた場合、に入ることばを考えて、十字以内で書きなさい。

△、沼の周りに人がうろうろし始めるようになった。

(6) 線④「樫やんが言いふらしたせいにちがいがなかった」と

一	中	レ	バ	ノ	来	の	ナ	キ
---	---	---	---	---	---	---	---	---

ありますが、何を「言いふらした」のですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- (ア) 樫やんが、何者かに舟ごと岸にふつ飛ばされたこと。
- (イ) 沼にとほうもなく大きなうなぎがすんでいること。
- (ウ) 沼にすむ竜は、ひどくおくびょうであること。
- (エ) 沼にどでかい竜がすんでいること。

(7) 線⑤「これには三太郎も困ってしまった」とありますが、「これ」は何を指していますか。次から適切でないもの一つを選び、記号で答えなさい

- (ア) 沼の周りを人がうろうろすること。
- (イ) 日に一回の胸の空気の入れかえができないこと。
- (ウ) 沼のほとりで人々がかがり火をたくこと。
- (エ) 見物衆に顔を見られてしまったこと。

(8) 線⑥「三太郎は、気の弱い微笑を浮かべながら、沼の底にいく巻きもしている自分の巨大な体をながめているばかりであった」とありますが、この部分のおもしろさはどんなところにありますか。考えて書きなさい。

ち	ま	る	な	な	い	世	界	の	レ	バ	ノ	来	の	ナ	キ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2 空中ブランコ乗りのキキ

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そのサーカスでいちばん人気があつたのは、なんといっても、空中ブランコ乗りのキキでした。

サーカスの、大テントの見上げるように高い所を、こちらのブランコからあちらのブランコへ、三回宙返りをしながらキキが飛ぶと、テントにぎっしりいっぱいのお客様は、Iいつも割れるような拍手をするのです。

「まるで、鳥みたいじゃないか。」

「いえ、どちらかというと、ひょうですね。」

「いや、お魚さ。あゆはちょうどあんなふうなAハねるよ。」

人々はみんな、キキの三回宙返りを見るために、そのサーカスにやって来ました。どの町へ行つても、キキの評判を知つていて、だからそのサーカスは、IIいつでも大入り満員でした。

「なあ、キキ……。」

団長さんは、IIIいつも言っております。

「おまえさんは、世界一のブランコ乗りさ。だってどこのサーカスのブランコ乗りの、二回宙返りしかできないんだからね。」

「でも、団長さん。①いつか、だれかがやりますよ。みんな一生Iケンメイ、練習をしていますもの。そうしたら、わたしの②人気は落ちてしまうでしょう。」

「心配しなくてもいい。だれにも三回宙返りなんてできないさ。それに、③もし、だれかがやり始めたら、おまえさんは四回宙返りをして見せればいいじゃないか。」

「四回宙返りを？ できませんよ。練習してみましたが、三回半がやっとなんです。ほんとうに、鳥でもない限り四回宙返りなんて無理なんです。」

キキは、④人々の評判の中で、IVいつも幸福でしたが、だれかほかの人が三回宙返りを始めたらと、考えると、その時だけ少し⑤心配になるのです。「その時は、団長さんの言うとおり、四回宙返りをしなければいけないのだろうか……。」

キキは、サーカスの休みの日、だれもないテントの中で何度か練習をしてみました。でも、いつももう少しという

ところで、⑥ブランコに届かずに落ちてしまうのです。練習の時には、落ちた時の用心に、下に「ウ」が張ってありますが、本番の時には、それがありません。キキのお父さんも、空中ブランコのスターだったのですが、三回宙返りに「エ」シッパイして落ち、それがもとでなくなったのでした。

「およしよ。」

練習を見に来たピエロの口ロが、キキに言いました。

⑦「四回宙返りなんて無理さ。人間にできることじゃないよ。」

「でも、だれかが、三回宙返りを始めたら、わたしの人気は落ちてしまうよ。」

「いいじゃないか。人気なんて落ちたって死にやしない。ブランコから落ちたら死ぬんだよ。いっそ、ピエロにおなり。ピエロなら、どこからも落ちやしない。」

「人気が落ちるといふことは、きつと「サビ」しいことだと思うよ。お客さんに拍手してもらえないくらいなら、わたしは死んだほうがいい……。」

(1) — 線「ア」オのカタカナを漢字に直して書きなさい。

エ	ア
オ	イ
	ウ

(2) — 線②「人気は落ちてしまう」、⑥「ブランコに届かずに落ちてしまう」とあるように、「落ちる」にはさまざまな用法があります。次のそれぞれの文の——線部の「落ちる」の言い換えとして適切なものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選ばれません)

①月が落ちる。

②品が落ちる。

③花が落ちる。

④涙が落ちる。

⑤つやが落ちる。

⑥雪が落ちる。

(ア) 低くなる。劣る。

(イ) 降る。

(ウ) こぼれる。

(エ) 沈む。没する。

(オ) 失せる。消える。

(カ) 散る。

①
②
③
④
⑤
⑥

(3) — 線④「人々の評判」とありますが、キキが三回宙返りをする姿を、「人々」がたとえていることばを、本文中から四つ、それぞれ三字以内で書き抜いて答えなさい。

(4) — 線Ⅰ「いつも割れるような拍手をするのです」、Ⅱ「い

つでも大入り満員でした」、Ⅲ「いつも言っておりまして」、

Ⅳ「いつも幸福でした」のように、この文章には「いつも

(いつでも)」という語がくり返し用いられていますが、こ

れはどのような効果をあげていますか。次から最も適切な

ものを選び、記号で答えなさい。

(ア) キキがだんだん自信をつけていく様子を表す効果。

(イ) キキの人氣が今のところゆるぎないものであることを

表す効果。

(ウ) キキがいつも変わらず平常心でいることを表す効果。

(エ) キキがだんだんうぬぼれてきたことを表す効果。

--

(5) — 線①「いつか、だれかがやりますよ」とありますが、何

を「やりますよ」というのでしょうか。本文中から五字で

書き抜いて答えなさい。

--	--	--	--	--

(6) — 線③「もし、だれかがやり始めたら、おまえさんは四

回宙返りをして見せればいいじゃないか」とありますが、

この団長の言葉から感じられるものとして最も適切なもの

を次から選び、記号で答えなさい。

(ア) 練習さえすれば何でもできるようになるはずだとい

う、団長さんのかたい信念。

(イ) サーカス全体の利益のためなら、キキなどどうなっ

てもいいという、団長さんのずるさ。

(ウ) キキにとっては不可能なことなどなかるうという、団

長さんのキキに対する絶対的な信頼。

(エ) 練習の困難さなどまったく考えずに、やればできると

簡単に考えている団長さんの気楽さ。

--

(7) — 線⑤「心配」とありますが、キキは結局どんなことが

心配なのですか。「〜こと。」という形で、書いて答えな

さい。

--

(8) — 線⑦「四回宙返りなんて無理さ。人間にできることじゃ

ないよ」とありますが、これと同じ意味のことを言ってい

るキキの言葉を、本文中から一文の形で探し、その最初の

五字を書き抜いて答えなさい。

--	--	--	--	--	--

3

アイスキャンデー売り

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ひとしきり ^アカネを鳴らすと、女の人はしゃがみこんでお客を待ちます。三十年以上も前のことで、小学生たちの夏休みはずいぶんと①質素でした。プールにも海にも旅行にも、めったに行かれないし、クーラーを備えている家もまれだったのです。うだつてしまいうに暑い午後のひと時、アイスキャンデーをなめるのは大きな楽しみで、子供たちはお金を ^イニギリしめて空き地にかけつけました。

「二つください。」「三つください。」と言われるたびに、女の人は白い箱からアイスキャンデーを取り出します。キャンデーは白とブルーとピンクで、むきだしのままでした。三色のそれぞれが、違う味だったのかどうかはわかりません。冷たい物を食べると、たちまちおなかをこわす子供だったせいので、わたしはアイスキャンデー売りのお客にはなれなかったのです。

おいしいだろうな、食べてみたいな、と思いながら、遠く

に立って、魔法の食べ物のようにきれいなアイスキャンデーを ^ウナガめました。お ^エコジカイを持ち出してこっそりと買うこともできましたが、夕方になればおなかが痛くなって母にしかられるにきまっています。

アイスキャンデー売りは、指をくわえて見ているわたしには気づかずに、白とブルーとピンクのかたまりを売りました。②キャンデーを渡す時もお金を受け取る時も、黙ったきりです。麦わら帽子の下で、女の人の顔は無表情でした。

お客がいなくなると、女の人はもう一度箱を開けて、白とブルーとピンクのアイスキャンデーを一つずつ取り出します。三つのアイスキャンデーを、きちんと並べて地面に置き、^オトナリにしゃがみこんで、しばらくじっとしていたあとで、女の人は立ち去りました。

「どうしてあんなところに、アイスキャンデーを置いておくのかしら。アリのえさになってとけてしまうだけなのにな……。」

③アイスキャンデー売りのふしぎな動作に気づいたのはわたしだけではありません。友達みんな、毎日必ず地面に置かれる三つのアイスキャンデーのことを知っていました。

売れ残りを捨てているのだとか、あれこれ言い合っていた子供たちに、**カ**シンソウを話してくれたのは近所のおばあさんでした。アイスキャンデー売りは空襲で、三人の子供をなくしたのです。焼け死んだ小さい人たちがいた場所に、毎日キャンデーを**キ**ソナえているのです。

「ここに幽霊が出るぞ。子供の幽霊が三人出て来て、アイスキャンデーを食べるんだ。」

小学生たちは言って、幽霊ごっこが始まりました。幽霊が出る、幽霊が出るとくり返ししながら、木の周りを回るので、**ク**タンジュンすぎて、遊びとも呼べないようなものでしたが、幽霊のまねをしてぐるぐる回りながら、思いつく限りの**ケ**コワい顔をして見せるのがおもしろく、しばらくの間、みんなが熱中しました。

④ ある日、幽霊ごっこの最中に、アイスキャンデー売りがやって来ました。

「アイスキャンデーのおばさんの、子供の幽霊……アイスキャンデーを食べるぞ。」

三人の子供の、幽霊のふりをしていた小学生たちは、自転車が止まると立ちすくみました。なくなった人をおもちゃに

してはいけなないと、心のどこかしらで考えたのかもしれない。しかられるのを覚悟して、しんとしている小学生たちに向かつて、女の人が言いました。

「幽霊になって、会いに来てくれるといいんだけどね。」

⑤ それっきり、だれも、何も言いませんでした。

(1) 線ア～ケのカタカナを漢字に直して書きなさい。

キ	エ	ア
ク	オ	イ
ケ	カ	ウ

(2) 線①「質素」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

(ア) 金づかいがあらうこと。(イ) はでな生活をする
(ウ) じみで、つつましいこと (エ) 物質のもと

(3) 線②「キャンデーを渡す時もお金を受け取る時も、黙ったきりです。麦わら帽子の下で、女の人の顔は無表情でした。」とありますが、筆者は後になって、女の人のこういう態度にはどんな理由があったと想像していますか。次から

最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

(ア) 子供たちの「幽霊ごっこ」に気を悪くしていたから。

(イ) 頭がおかしいとうわさされていることを知っていたから。

(ウ) アイスキャンデーを売ることに関心を取られていたから。

(エ) 他の人にうかがい知れない深い悲しみを持っていたから。

☐

(4) — 線③「アイスキャンデー売りのふしぎな動作」とありますが、その「ふしぎな動作」の持っている意味がわかる、一続きの二文を本文中から探し、その最初の一文の初めの十四字を書き抜いて答えなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(5) — 線④「ある日、幽霊ごっこの最中に、アイスキャンデー売りが出て来ました」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

①筆者を初めとする「小学生たち」は、どんな気持ちで「幽霊ごっこ」を始めたと考えられますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

(ア) うしろめたい気持ち。 (イ) むじやきな気持ち。

(ウ) 人を思いやる気持ち。 (エ) 意地悪な気持ち。

☐

②そのような気持ちでいた「小学生たち」が「幽霊ごっこ」の持つ意味に気づいたことがわかる一続きの二文を本文中から探し、その最初の一文の初めの六字を書き抜いて答えなさい。

--	--	--	--	--	--

(6) — 線⑤「それっきり、だれも、何も言いませんでした」とありますが、それはなぜですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

(ア) しかられると思ったのに、しかられないのでほっとしたから。

(イ) おばさんの悲しみの大きさに心をうたれたから。

(ウ) おばさんの話で、「幽霊」が急にこわくなったから。

(エ) うっかり何か言う、しかられると思ったから。

☐

(7) この文章全体で筆者が言いたかったこととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

(ア) 昔の子供たちのことを考え、ぜいたくをしてはならない。

「霊い。」この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(イ) 戦争の話をして、人の心を傷つけるようなことをしてはならない。

(ウ) 戦争で殺された子供たち、心を傷つけられた人たちが

いたことを忘れてはならない。中二「アリス・サンデー」

(エ) 子供時代の美しい思い出を失ってはならない。

十四字を答へて答へる。

一語の二文を本文中心と料、その景の一文の時々の

まず、その「心」を「心」の料、その意を述べた。

「心」

(エ) 昔の人々の生活は、悲しい生活であった。

「心」

(ウ) アリス・サンデーは、その「心」を「心」の料、その意を述べた。

「心」

(ア) 戦争は、その「心」を「心」の料、その意を述べた。

(イ) 戦争は、その「心」を「心」の料、その意を述べた。

「心」

「心」

(イ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(エ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(ウ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(ア) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

「心」

(ア) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

「心」

(イ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

「心」

(エ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(ウ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(ア) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(イ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(エ) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

(ア) この文章の意を述べた。次の文章の意を述べた。

4 下 カバこそぼくの人生 (1)

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくはカバが大好きである。カバもぼくが好きである。ぼくがキリンを飼っていたら、もう少しスマートだったかな（現在、ぼくのウエイトは七十キロ）という気がしないでもないが、ほかの人から、「西山さん、カバに似てるね。」なんて言われると、わけもなくうれしくなるのだからしかたがない。

飼育係となつて三十年、カバとのつきあいは、うちの家内とのつきあいより長い。いつもおどかされ、教えられ、新しい発見の連続だった。ぼくは、最近つくづくカバと出会えてほんとうによかったと思う。「そんなことを考えるようでは、西山さん、あんたも年だね。」こんな声が聞こえないでもないが、カバこそぼくの人生、ぼくはまさしくホモ・ヒポポタマス（カバ的人間）である。

デカオのふるさととはアフリカのケニアである。首都ナイロビの北三十マイルの所にある、ジュジャという町の川で捕らえられた。その辺りは、池といわず沼といわず、小さな水

たまりまでカバでいっぱい①のカバ天国らしい。用心深いカバを生け捕るのに、さんざん^アチエをしぼった人間たちは、川の近くに特別のさくを作ることを考えついた。一方からのぞくと、向こう側に通る^イヌ^{II}けられるように見えるさくで、中にカバの好物の牧草が点々としてあるのだ。それでもカバは、最初は入り口まで来て引き返し、次の日は二、三歩さくの中に入り、といった調子で②下見を続け、大きな体が、すつぽりさくの中に入つてしまふには、何日もかかるらしい。デカオもこんなふうにして捕らえられたのだが、③これと同じようなことが、動物園での引つこしの時に起こった。ずっと前に、デカオを新しいカバ舎に移すことになった時のことである。大きな木の箱を作つて中にえさを入れ、デカオをウサ^{II}いこもうとしたことがあった。仲よしのぼくがついていたにもかかわらず、デカオが箱に入るのに、なんと十日間もかかったのである。

デカオとのつきあいで、ぼくがいちばんおどろき、かつ困らされたのは、^エカ^レがカバ舎のあちこちにうんちをまき散らすことであつた。どういうわけか^オオ^スのカバは、水から上がつてふんをする。あの短いしっぽを左右に振りながら、プツ、プツ、プツと出していくのだからたまらない。カバ舎

は、カベから天井までうんちだらけ。ソウジするぼくは、
 クメスのカバ舎の何十倍かの労力を使って毎日ごしごしやる
 わけで、いやになるというよりも「よくぞここまで飛ぶもの
 だ。」とあきれ返ってしまったものだ。

言うまでもなく、ふんこそは、すべての動物（人間もだよ）
 の健康の④バロメーターである。快食であれば快便、快便で
 あれば健康であるのは言うまでもない。それゆえ、⑤われわれ
 飼育係は、せつせと仕事にはげんでいるわけだ。

ところでカバのうんちについて、アフリカの原住民である
 アサンデ族の民話にこんな話がある。

昔々、神様が地球上の動物たちを一堂に集めて、すみかを
 決めた時のこと。大きくて動きのケニブイカバは、その集ま
 りにすつかりおくれてしまった。やっと神様の前に出て「あ
 たしは太っているから水の中にすませてください。」と願ひ出
 ると、神様は、「おまえはでかいし、水の中にすむことになつ
 たほかの動物たちのじゃまになろう。」と首をかしげられた。
 しかし、あんまりカバが頼むので、かわいそうになった神様
 は、ほかの動物を傷つけたりしないと約束するならという条
 件で、水の中にすむことをお許しになった。そこでカバ君、う

んちの時には必ず水から陸に上がり、「神様、ほらごろんなさ
 い。あたしや魚など全然食べていませんよ。」と、うんちをま
 き散らして、⑥身の潔白を証明し続けているのだというのだ。

ぼくは、あのカバのうんちから、こんなに⑦すてきな話を
 作り上げた現地の人たちの優しい心根にはほとほと感心した。

(1) 線ア～ケのカタカナを漢字に直して書きなさい。

キ	エ	ア
ク	オ	イ
ケ	カ	ウ

(2) 線Ⅰ「られ」、Ⅱ「られる」と同じ意味・用法の「られ
 る」をそれぞれ次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答え
 なさい。

(ア) ふるさとの母の身が案じられる。

(イ) よくできたと先生にほめられる。

(ウ) お客様が家に遊びに来られる。

(エ) 好ききらいなく、何でも食べられる。

Ⅰ	
Ⅱ	